

経団連 教育・人材開発プロジェクトの推進状況

ーサンライズ・レポートに基づき推進するプロジェクトー

2012年4月
(一社)日本経済団体連合会

[1]「経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業」の推進と日本人学生留学および外国人留学生受入れに向けた課題の検討

➤ 趣 旨

日本の若い世代の間で内向き志向が広がっていることを踏まえ、将来の日本企業のグローバルな事業活動をリードする人材を育成・支援する観点から、日本人学生の海外留学推進に向けた新たな奨学金を設置する。また、就職活動の早期化・長期化が、学生が交換留学に応募しない要因の一つに指摘されていることから、帰国した奨学金受給学生等を対象とした合同の就職説明会・面接会の開催に協力する。

➤ 具体的取り組み

(1)「経団連グローバル人材育成スカラーシップ」の新設

経団連が協力して運営している「公益財団法人 経団連国際教育交流財団」中に、将来、わが国のグローバルな事業活動に携わろうという意欲を持った学生を対象とした奨学金「経団連グローバル人材育成スカラーシップ」を新設。

① 規 模：2億4千万円程度（8年間の必要額）

経団連国際教育交流財団の積立資産からの拠出に加え、新たに、経団連役員会社等に資金協力を依頼（1社100万円/年）。

② 対 象：大学・大学院の学生で所属大学の交換留学制度等に基づき、海外の大学に1年間留学する者。2012年度は、国際化拠点「13大学」を中心に募集。2013年度奨学生（2012年秋募集）より、政府の「グローバル人材育成推進事業」に新たに採択されるグローバル化を推進する大学（40大学）にも拡大する予定。

③ 奨学金の内容：一人 年間100万円

*用途は限定しないが、交換留学の下では、原則、留学先の授業料は免除となるため、留学中に自己研鑽や見聞を広め、多様な経験を積むための資金とする。

④ 2012年度奨学生の選考

国際化拠点13大学から推薦のあった61名の応募者の中から、2月7日に経団連会館において、募金に協力いただいた企業の人事担当者等による選考会を開催し、35名を選抜。

⑤ 2012年度派遣奨学生への指導・助言

2012年度奨学生を対象に、5月30日に経団連会館にて、留学前の「課題共有会」を開催する他、留学中はSNS等を利用して現地での生活やの進路、インターンシップの機会に関する助言、情報提供等を行う。

(2)「グローバル人材育成のための産学連携フォーラム」の開催

国際化拠点13大学との共催で、グローバル人材の育成に関わる諸課題や、日本の大学国際化や留学生受入れ推進に関わる諸課題を検討。第3回目となる2012年度は、9月中旬に経団連会館にて開催予定（「グローバル人材育成推進事業」の採択大学の参加も検討中）。

(3)留学帰国生向けの合同就職説明会・面接会（経団連グローバルキャリア・ミーティング）の開催

「経団連グローバル人材育成スカラーシップ」を受けて留学し、帰国した学生等を対象に合同就職説明会・面接会（経団連グローバルキャリア・ミーティング）の開催に協力する。2012年度は試行的に、国際化拠点13大学の後援を得て、海外留学から帰国した大学4年生及び大学院修士2年生で日本企業のグローバルな事業活動で活躍する意欲を持つ者を対象に、8月4日に経団連会館にて開催予定。

[2]「グローバル人材育成モデル・カリキュラム」の検討・実施

➤ 趣 旨

将来、日本企業の国際的な事業活動等を担い、国際ビジネスの現場で活躍する人材を育成するため、国際化拠点13大学と協力して、企業の経営トップ、実務者によるグローバル・ビジネスの実態に関する講義や、企業におけるインターンシップ等をカリキュラム化して単位として認定するといった形のモデル・カリキュラムを検討・実施する。

➤ 具体的取り組み

(1)ワーキング・グループにおけるモデル・カリキュラムの検討

教育問題委員会の中に「モデル・カリキュラム検討ワーキング・グループ」を設置し、13大学の一つである上智大学において試行的に実施するカリキュラムの内容を大学側の参加を得て検討。まずは大学2年生を対象に2012年秋より「導入講座」を開設し、2013年春から、大学3～4年生を対象とする「本講座」を開設することで基本合意。「本講座」では、グローバル・ビジネスの主要課題を掘り下げる内容とし、履修要件として事前に、大学側の提供する法律、産業論等の基礎的講座の受講を義務付けることも含め、カリキュラムとしての一貫性を持たせるよう、工夫する。

(2) 大学と企業の連携（インターンシップ、寄附講座等）の優良事例紹介（経団連機関誌やホームページ等）

以上